

案件概要書

2014 年 2 月 25 日

国際協力機構南アジア部南アジア第四課

1. 案件名（国名）

国名：ネパール連邦民主共和国

案件名：タンコット峠トンネル建設事業 (Thankot Tunnel Construction Project)

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における運輸セクターの開発実績（現状）と課題

ネパールは、国土の約 8 割が山岳地帯のため、運輸交通（貨物・旅客）の約 9 割を道路に依存し、交通モードの一極集中が進んでいる。過去 10 年にわたり実質 GDP 成長率が約 4%と安定的に成長してきたこともあり、国内の車両登録台数は過去 5 年間で約 2 倍に増加し、陸路を中心とする貿易取引額も 2004 年度から 2012 年度にかけて輸出は約 1.7 倍、輸入は約 3.2 倍に増加するなど、貨物量・旅客量とも拡大を続けている。一方で、人口当たりの道路距離(0.95km/千人)、道路密度(138.6km/千 km²) は南アジア最低レベルで、未舗装道路率も 46.1%と高く、道路ネットワークの整備の遅れが経済成長のボトルネックとなっている。特に、首都カトマンズから国土を東西に貫くミッドヒル・ハイウェイ（約 1,750km）、及び南部のタライ穀倉地帯を経て、インドとの陸上取引の最重要拠点ビルガンジ（陸上取引の約 6 割が通過）へ繋がる幹線道路は、ネパール経済の大動脈であるが、増加する貨物量・旅客量にその整備が追いついていない。

(2) 当該国における運輸セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

ネパール政府は、国家開発戦略の最上位に位置づけられる「第 13 次計画(2013/14～2015/16) アプローチペーパー」において、道路セクターについては、「国家の統合、社会経済開発、地域均衡に資する、均質で、信頼が置け、十分で、かつ安全な道路網の拡張」を掲げ、タンコット峠トンネル建設事業（以下、「本事業」という）の支援対象区間を含むミッドヒル・ハイウェイの継続的な整備が重要であるとしている。

本事業の支援対象区間は、首都カトマンズから第二の都市ポカラ、南部のタライ穀倉地帯、インドとの交易拠点に繋がる主要幹線道路の一区間を構成する。同区間には急峻なタンコット峠（標高 800m～1,500m）があり、10%超の急勾配や急カーブにより交通渋滞や交通事故が頻発し、雨季には地滑りで交通が遮断される等、国全体の運輸交通のボトルネックとなっており、約 22km の同区間を抜けるため最大 4 時間程度を要する場合がある。本事業では、交通の難所タンコット峠にトンネルを建設することで、急増する交通需要へ対応し、移動時間を短縮し、通行の安全性向上を図ることで、カトマンズと主要都市の運輸交通（貨物、旅客）の円滑化に資するものであり、我が国の援助方針、ネパール政府の開発政策に合致することから、本事業を実施する必要性・妥当性は高い。

(3) 運輸セクターに対する我が国の援助方針

我が国の対ネパール国別援助方針（2012年4月）では重点分野「持続可能で均衡のとれた経済成長のための社会基盤・制度整備」にかかる協力プログラムの一つとして運輸交通インフラ整備を掲げている。

(4) 他の援助機関の対応

ネパールの運輸セクターは JICA の他、世界銀行(WB) 及びアジア開発銀行(ADB) が主要ドナーである。WB はポカラ以西のミッドヒル・ハイウェイや地方の道路・橋梁改修等、ADB はインドへ接続するビルガンジ周辺の幹線道路改修等を支援している。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

カトマンズと主要都市を結ぶ幹線道路上にあるタンコット峠にトンネルを建設することにより、急増する交通需要への対応、移動時間の短縮、通行の安全性向上を図り、もってカトマンズと主要都市の運輸交通の円滑化及びネパール経済全体の活性化に寄与する。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

カトマンズ郡、及びダディン郡

(3) 事業概要

- 1) トンネル建設（2 車線）
- 2) アクセス道路建設（2 車線）
- 3) コンサルティング・サービス（詳細設計、入札補助、施工監理等）

(4) 事業実施体制

借入人：ネパール政府

事業実施機関：公共事業運輸省道路局

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類： B

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構 環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大ではないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等：＊協力準備調査にて確認

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携：＊協力準備調査にて確認

(7) その他特記事項：特になし。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

フィリピン「コルディレラ幹線道路整備事業」の事後評価結果等から、急峻な地形や降雨による地滑りが生じやすい等固有の特質がある場合は、定期点検や迅速な

修繕対応のため、人員を厚めに配置する、予算を増額する等の柔軟な措置が望まれるとの教訓が得られている。

(2) 本事業への教訓

本事業でも、急峻な山岳部に道路を整備することから、上記教訓を踏まえ、事業対象地の状況に即した人員体制、予算措置等を実施計画に反映する。

以上

〔別添資料〕 地図

タンコット峠トンネル建設事業 地図

